

# 平成30年度カスケード及びその 周辺の管理について

面内 良・信太千帆

## はじめに

カスケードでは、鉢・プランター・大型コンテナ・ハンギングバスケット、花壇（委託花壇及び自主花壇）・立体花壇（グローバル）を使用して季節の草花等を常時展示している。

## 植栽について

カスケード周辺から正面ゲート及び、周辺花壇に植え付けた植物は表1-1、1-2、2-1、2-2の通りである。

## コンテナ類の展示状況

4月は例年通りチューリップとパンジーを主力とする展示を行った。チューリップはパンジーと寄せ植えにして展示を行った。両者を同系色で組み合わせる寄せ植えを行ったが、異なる花色のチューリップとパンジーを組み合わせるほうが、よりチューリップが目立つと感じた。その他、ムラサキハナナ、ハナナ‘春陽’、ネモフィラ‘インシグニスブルー’をカスケード中央部の階段（森のカフェ西側入口前の通路とカスケードとの合流部にある階段）に展示した。春らしさを感じさせる展示ができた実感している。ムラサキハナナは4月中旬に、ハナナ‘春陽’は5月上旬に、それぞれの開花終了に合わせて撤去した。ネモフィラについては4月下旬に間延びした草姿となり、開花が続いていたが見苦しかったため、5月上旬に処分した。

5月から6月にかけては、前年度同様、キク科アルギマンセマム属間ハイブリッド‘マックスマム’が良いパフォーマンスを示したが、リン酸過多が原因なのか、双頭花をもつ株が複数現れた。昨年度の観察で肥料を多く要求することが分かっていたが、即効性のあるペレックス2号の施肥量が多すぎたようである。また、4月下旬から売改札ゲート前階段に展示したゼラニウム‘カリオペ ダークレッド’は、7月中旬まで開花を続け、園の玄関口を彩った。

6月下旬以降はデュランタやハイビスカス、タイタンビカス、サンパチェンスなど、夏を感じ

させる植物の展示を行った。タイタンビカスは新たに草丈1.5mから1.8m程度の中型品種を導入し、前年よりも多くの株数・品種数を展示した。本年は7月10日の梅雨明け以降、近年まれにみる猛暑となり、鉢植えの灌水に非常に苦労することとなった。カスケード鉢植えとバックヤードの苗物を中心とした鉢植え、そして花壇に灌水をする以外に作業を行おうとすると、閉園まで体力がもたず、草花の育苗や手入れに支障がでた。そのため、10号前後の大鉢を中心に展示し、6号以下の鉢は水切れが早すぎるため極力展示を取りやめた。

一方、水を非常に好むものとしてサンパチェンスがある。前年は他の鉢植えに使用しているものよりも保水力を高めた用土を使用し、1日1回の灌水で問題なかった。本年度においても同用土を用い、さらに受け皿に水をためたのだが、根の成長が悪く、良い結果とならなかった。来期もサンパチェンスは使用予定であるが、専用用土を配合し腰水なしとするか、あるいは他の鉢植えと同じ用土で腰水ありにするか、どちらかにしたほうが良さそうである。

夏季においては昨年からの熱帯性スイレンの展示を始めたが、今年は耐寒性スイレンの展示も行った（写真1）。当園の熱帯スイレン温室は写真撮影のリピーターが多い印象であるが、今年は改修工事で閉館していたため、大温室の池、あるいはカスケードでスイレンの写真を撮る来園者を多く見かけた。スイレンを接写できる機会があまりないからか、好評であった。

9月以降の秋季はグリアの鉢植えをメインの展示を行いたいと考えていたが、夏季の管理に問題があり、順調に生育しない株が見られた。その問題点としては、①夏季に夜も気温が高いままの場所で管理してしまった、②8月に毎日灌水を行ったが、これが灌水過多であった、の2点が挙げられる。ハダニ等の虫害は見受けられなかったが、根の伸びや側枝の数が今ひとつであった。

その他、秋の反省点として、今年度は9月下旬以降の作業スケジュールの見通しが甘かったことがあげられる。

今年度はグリーンフェアの開催期間中にガーデンコンテスト作品展とハンギングバスケット作品展が開催された。また、グリーンフェ

アの関連展示として巨大カボチャの写真撮影コーナーを設けた(写真2)。これらの設営と秋播き草花の播種・育苗が重なり、作業が立て込んだ。また、開園記念日後に同展示会の撤去と、見頃を終えた秋物草花の撤去時期が重なり、カスケードの植栽を冬仕様に変更するまでに時間がかかってしまった。

### 自主花壇

今年度、新たに自主花壇に使用した品目のうち、非常に良いパフォーマンスを示したものを記す。

パチュニア F1 タイダルウェーブシルバー

入口ゲート横の自主花壇に使用。花茎5~6cmの中小輪で花色は白とやや青みのあるピンク。4月下旬から7月下旬まで植栽した(写真3)。5月中旬以降の花数が圧倒的で、見栄えが良い。鉢での展示も行っており、こちらは7月と9月の計2回切り戻しを行い、10月下旬まで良好な開花と花姿を保った。

ヒマワリ 'サンフィニティ'

レストラン階段下の自主花壇に使用。6月下旬から9月上旬まで植栽した。分岐性で側枝から良く開花し、7月上旬に開花が始まってから抜き取るまで見頃が続いた。従来のヒマワリ比較すると遥かに観賞期間が長い品種である。草丈約1.2m。

以上2品種は次年度も植栽予定である。



写真1. 耐寒性スイレン'タン・クワン'



写真2. カボチャの写真撮影スポット

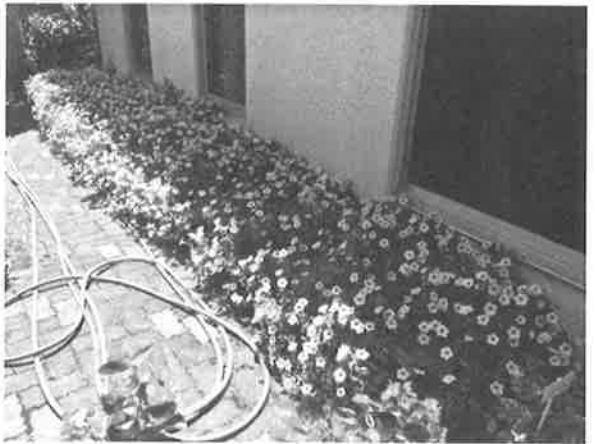


写真3. ペチュニア'F1 タイダルウェーブシルバー'

表1-1大型コンテナ類の展示植物と展示期間

植物名	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
アカンツスモリス+ヘデラ																								
アメリカテマリシモツケ'ディアボロ'																								
オリーブ																								
ゴールドクレスト																								
モクレン																								
ニューサイラン + ハツユキカズラ																								
ワイヤーブラシ																								
ハツユキカズラ																								
キンポウジュ																								
セイヨウヒイラギ																								
挿入りツルニチニチソウ																								
パンジー + チューリップ																								
ナスタチウム																								
テルフィニウム																								
挿入り真花ランタナ																								
耐寒性スイレン																								
耐寒性スイレン																								
デュランタ																								
挿入りエンゼルストランペット																								
ムサベルティナ																								
ハイビスカス																								
ポットマム																								
コルティネ・アウストラリス																								
ミュンヘンベルギア カビラリス																								
ノゲイトウ																								

は展示期間

